

1. 構想の概要

【構想の名称】

徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立

【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

金沢大学は、大学憲章に掲げる「地域と社会に開かれた教育重視の研究大学」という基本理念に基づき、「東アジアの地の拠点」としてグローバル社会の中核となって活躍できる人材の育成に全力を挙げ取り組んできました。近年、あらゆる分野でグローバル化が加速し、高等教育機関に要請される役割は非常に多くなってきています。そうした要請に応える形で、金沢大学でも大学改革を強く推進してきたところでありますが、今回、「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択されるという、まさに絶好のタイミングで強力な起爆剤を得たことにより、従来の改革をさらに急激に加速させ、学長主導による徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し、以下に示す10年後の姿を実現することにより、我が国の大学改革のモデルケースと成り得るような取組へと発展させます。

- ①独自の「グローバル人材スタンダード」に基づく質の高い教育を提供する大学
- ②世界で活躍する「金沢大学ブランド」の人材を輩出し、日本のグローバル化を牽引する大学
- ③東アジアの地において世界の高等教育研究ネットワークの中核に位置する大学

【構想の概要】

金沢大学は、本学が育成する人材像を具体的に示した「KUGS: 金沢大学<グローバル人材>スタンダード」を基軸とした教育カリキュラム改革、さらには教員・職員の国際化を強く推進し、金沢大学ブランドの確立を目指します。また、グローバル人材育成に関する「金沢大学モデル」を構築し、北陸地域、さらには我が国のグローバル化を牽引し、知識基盤社会の中核的なリーダーとなる人材を幅広く輩出していきます。そのために、特に教育・国際・研究とガバナンスに対応する7つの基本戦略を立て、全学的な国際化を加速し、国際化に必要な大学改革を進めていきます。



地域と世界に開かれた教育重視の研究大学

金沢大学の教育目標

専門知識と課題探究能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材の育成

教育改革の全てのよりどころとなる「金沢大学<グローバル>スタンダード」

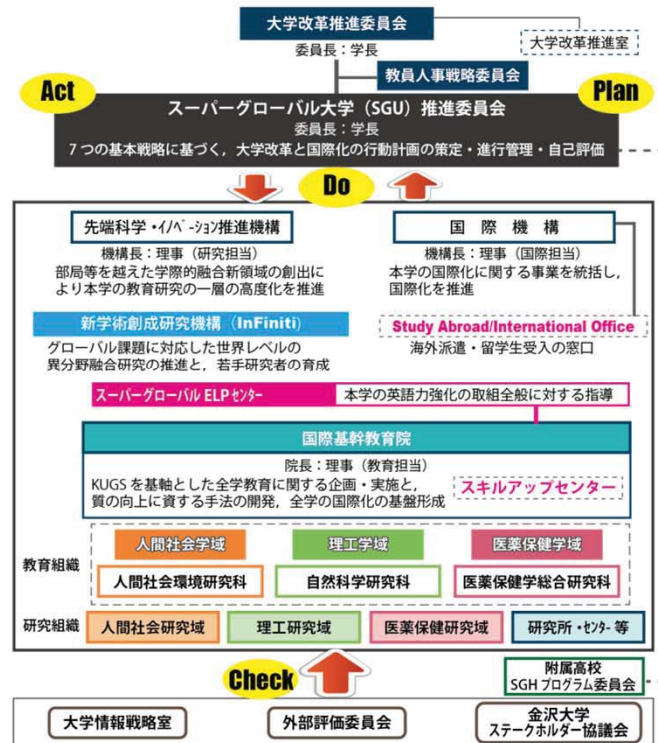


金沢大学<グローバル>スタンダード
グローバル化が不可逆的に進行する現在の国際社会において本学が教育目標を実現するために、本学が育成する人材の具体的な姿を明示

各人の立ち位置に課された人類の一員としての使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に積極的かつ果敢に現場の困難な課題に立ち向かっていける次の5つの能力・体力・人間力を備えた専門人材

- (1) 自己の立ち位置を知る
- (2) 自己を知り、自己を鍛える
- (3) 考え・価値観を表現する
- (4) 世界とつながる
- (5) 未来を予測する

金沢大学の10年後の姿



【10年間の計画概要】 ※7つの基本戦略

1 国際基幹教育院を中心としたKUGSに基づく金沢ブランド教育の実現

教育の国際化を支える「国際基幹教育院」を設置、学生の英語によるコミュニケーション能力の向上に取り組みます。
学士課程、博士前期後期課程に一貫するKUGS(金沢大学グローバル人材スタンダード)を定め、KUGSに基づく新カリキュラムを構築、併せて4学期制を導入します。

2 国際学類を先導モデルとした学士課程教育の国際化の加速

国際学類が実施してきた様々な国際プログラムを全学類へ波及させ学士課程教育の国際化を加速します。
全学類・全コースに最低1つ、単位互換を前提とした国際プログラムを導入、さらに単位互換科目を統合したジョイントディグリープログラムへと展開させ、日本に居ながらにして国際的な環境に身を置くことができるカリキュラムを整備します。

3 研究力強化のための教育研究特区の設置と国際化に対応した大学院教育の高度化

優位性のある学問領域をさらに強化、グローバル課題に対応した異分野融合研究を国際共同研究として推進するために「新学術創成研究機構(Institute for Frontier Science Initiative: InFiniti)」を設置、本学の研究力を強化します。
特に優秀な大学院生を選抜し、InFinitiにおいて異分野融合型教育、海外一流研究機関への留学派遣等を行い、将来教育者として求められる教授法を高度TA(High Ranking Teaching Assistant)としてトレーニングします。

4 国際教育研究ネットワークと金沢大学海外拠点の充実

サバティカル制度を活用して、海外研究機関との個人ベースの繋がりを充実させ、将来的な組織間交流へ発展させます。
本学職員が常駐する海外拠点をアメリカ、ヨーロッパ及びアジアに整備、将来的には教員も常駐するサテライトキャンパスを展開します。
海外同窓会を充実・強化、現地での広報や留学生募集の協力体制を構築します。

5 金沢大学スーパーグローバルELPセンター(タフツ大学と連携)の設置と英語教育の強化

質の高い英語教育で有名なタフツ大学のELP(English Language Programs)を実践するセンターを設置、教員、職員及び学生の英語力の向上を図ります。
タフツ大学と連携して、シラバス、ナンバリング、教授法及び評価法の確立に取り組み、国際スタンダードに基づく教育を実施するとともに、タフツ大学が有する国際教育ネットワークへの参画を実現します。

6 地域「超」体験プログラムとSGHとの連携による地域のグローバル化の牽引

本学の留学生全員が日本人学生と共に地域の人々と直接ふれあう機会を持つ地域「超」体験プログラムを実施します。
幼稚園から高校までの附属学校園を有する本学の特徴を活用、初等中等教育の国際化に対応した教員養成を行います。
SGH(Super Global High School)である附属高校等と連携、新たな高大接続モデルを構築、相乗的な国際化を実現します。

7 学長のリーダーシップによる迅速かつ強力なガバナンス改革

本学の改革に関する全ての事項を統括・推進する司令塔として、大学改革推進委員会を設置、学長のリーダーシップの下、大学運営・教員人事制度を中心に断固としたガバナンス改革を推進します。

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

OKUGSで掲げる5つの能力・体力・人間力を備えた人材を育成するため、人間力強化プログラムを導入し、プログラムへの参加を卒業要件とします。人間力強化プログラムの目的は、参加者が体力・精神力の重要性和多様な価値観の存在を認識し、学生自身が社会の一員であることを自覚することにあります。学生は、このプログラムにおいて、1～3年次のいずれかに【海外派遣】もしくは留学生と日本人学生がチームで参加する【地域「超」体験】のいずれかを選択し、金沢大学キャンパス外の日常を経験することになり、この経験により将来の国際社会で生き抜くための人間力を涵養します。

○本学の大学間交流協定校であるタフツ大学は、ボストン近郊に位置する1852年創立の名門大学であり、質の高い英語研修プログラム(English Language Programs: ELP)とともに、1クラス15名以下の少人数クラスやアクティブ・ラーニングなどの高水準の教育によって知られています。本学は日本における唯一の協定校であり、この優れたタフツELPを活用するため、タフツ大学の協力を得て、同大学のELP教員が駐在する「金沢大学スーパーグローバルELPセンター」を本学に設置し、教員を対象とした英語による教授法、職員を対象としたビジネス英語及び学生の留学向けの英語力の向上を図ります。

○本学のステークホルダーによる「金沢大学ステークホルダー協議会」を設置し、本学の教育、研究及び運営状況等を報告するとともに、大学への意見や要望等を求め、今後の大学運営に反映させます。

本学のステークホルダー:

教職員、在学生、保護者、卒業生(同窓会)、受験生、高校関係者、地域住民、企業、自治体、外郭団体〔金沢大学生協、金沢大学済美会、角間里山みらい等〕

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 金沢大学スーパーグローバルELPセンターを設置

平成27年3月、角間キャンパスゲストハウス内に「金沢大学スーパーグローバルELPセンター」を設置しました。本センターは、本学の大学間国際交流協定校であるタフツ大学(米国)の全面的な協力のもとに設立され、学生及び教職員の英語力強化を担います。

○ 附属図書館内に「国際交流ルーム」を設置

平成27年3月27日、自然科学系図書館に、留学生と日本人学生の交流スペースとして新たに「国際交流ルーム」がオープンしました。「国際交流ルーム」は、留学生と日本人学生の〈学び〉を通じた交流を促進することを設置目的とし、ディスカッション・プレゼンテーションの設備を備えています。

○ ベルギーに金沢大学гент事務所を設置

平成27年5月19日、ベルギーのгент大学内に金沢大学гент事務所を設置しました。гент大学とは、2009年(平成21年)7月に本学と大学間国際交流協定を締結しています。



〈金沢大学гент事務所を設置〉

○ 金沢大学タイ同窓会及び中国同窓会を設立

平成26年8月26日に金沢大学タイ同窓会が設立され、11月8日に同じく中国同窓会が設立されました。平成25年度以前に設立された同窓会ポストン支部、ベトナム支部、ミャンマー同窓会に続く海外同窓会となります。

○ トビタテ！留学JAPANで本学学生が積極的に留学

平成26年度に開始した官民協働の海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」において、第1期には本学から13名の学生が応募して4名が合格し、第2期には22名の学生が応募して7名が合格しました。第2期は、応募者数、合格者数ともに全国の国立大学で第4位という好結果でした。

ガバナンス改革関連

○ 金沢大学スーパーグローバル大学企画・推進本部を設置

平成27年2月10日、SGU事業「徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立」構想の推進のため、スーパーグローバル大学企画・推進本部を設置しました。

○ 金沢大学SGU事業キックオフシンポジウムを開催

平成27年3月22日、金沢市内で金沢大学SGU事業キックオフシンポジウム「金沢大学〈グローバル〉スタンダード確立への挑戦」を開催し、国内外から約230名が参加しました。シンポジウムでは、本学学長挨拶、理事からの事業説明及び来賓挨拶に続き、元国際連合事務次長の明石康氏による基調講演が行われました。

○ SGU事業に係る学内説明会を実施

平成27年6月4日、教職員を対象に学内説明会を実施し、400名以上が参加しました。説明会では、学長及び理事等から事業の概要や、本学の取り組み、本学の10年後の姿などについて説明しました。



〈金沢大学SGU事業キックオフシンポジウム〉

教育改革関連

○ 学生向け「スーパーグローバル英語プログラム」を開講

平成27年4月より、「金沢大学スーパーグローバルELPセンター」において学生向けの「スーパーグローバル英語プログラム」を開講しました。タフツ大学から派遣された講師による少人数制の授業で、留学に必要な英語力の育成を目指します。

○ 「英語学習アドバイザー」制度の運用を開始

平成27年4月より、学生の英語力向上を目的とした「英語学習アドバイザー」制度の運用を開始しました。アドバイザーは英語学習に関するカウンセリング、学習サポート及びTOEIC対策レッスン等の各種講座などを担当し、教育効果の向上を図ります。

○ 国際学類の入試で外部試験活用を開始

平成26年度に実施した平成27年度の入試において、本学人間社会学域国際学類では、TOEIC、TOEFL等の外部試験のスコアの提出を認め、スコアが定められた基準を超えている場合には大学入試センター試験「英語」の成績を満点とみなすこととしました。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ コラボラティブ・プロフェッサー委嘱状授与式を挙

平成27年3月22日、新たにコラボラティブ・プロフェッサーとして委嘱された3名の委嘱状授与式を挙りました。コラボラティブ・プロフェッサーは、海外において本学の学生募集、派遣学生のフォローアップや国際共同研究の推進などを行います。

○ タフツ大学ELP(English Language Program)による教員対象英語研修プログラムを開講

平成27年3月より、「金沢大学スーパーグローバルELPセンター」において、教員対象英語研修プログラム(試行版)を開講しました。参加教員22名は、3月中に対面授業を受講し、学期期間はe-Learningで受講しました。



〈コラボラティブ・プロフェッサー委嘱状授与式〉

○ サバティカル制度を施行し、教員が海外で研修を開始

平成26年度、6名の教員が海外でサバティカル研修を開始しました。平成27年度も6名の教員が海外での研修を計画しており、今後拡大していく予定です。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 金沢大学新学術創成研究機構(InFiniti)を設置

平成27年4月1日、金沢大学新学術創成研究機構(InFiniti)が設置されました。同機構は、異分野融合研究の国際的共同研究及び国際的な環境での優秀な大学院生の育成を推進します。

○ 人間力強化プログラム「学長と行く能登合宿」「学長と行く五箇山合宿」を実施

金沢大学グローバルスタンダード(KUGS)で掲げる5つの能力・体力・人間力を備えた人材を育成するために人間力強化プログラムが導入され、その一環として平成26年8月に「学長と行く能登合宿」、平成27年2月に「学長と行く五箇山合宿」が実施され、計66名の学生が参加しました。



〈人間力強化プログラム「学長と行く五箇山合宿」〉

○ 英語による授業及び英語のみで卒業できるコース設置について、FD研修を実施

平成26年3月、グローバル化において先進的な取り組みを行っている国際教養大学及び首都大学東京の教員を講師としてFD研修を実施し、英語による授業及び英語のみで卒業できるコースの設置に向けて認識を共有しました。

■ 自由記述欄

日本人学生と留学生の混住型学生宿舍の整備

金沢大学では、様々な国や人種の学生が、地域や文化の枠を超えて共同で学び生活する混住型の学生宿舍を整備します。既に「先魁(さきがけ)Ⅰ」(104人収容 平成24年10月)が完成しており、平成28年には隣接地に「先魁(さきがけ)Ⅱ」(200人収容)を建設予定です。将来的には、金沢市中心部にある学生寮3寮を移転し、800人規模の混住型学生寮を整備します。

歴史と文化に近代都市が融合する金沢市

金沢大学のある金沢市は、日本列島の中央、日本海側に位置し、平成27年の北陸新幹線開通により、東京へのアクセスは2時間半となりました。人口約45万人と大き過ぎず、日本海側を代表する近代都市ですが、江戸時代の城下町の風情をいまに残し、多彩な伝統文化が息づいています。



角間キャンパス

メインキャンパスは、総面積200万㎡、東京ドーム約43個分という広大さで、緑豊かな里山に囲まれた学生生活には最高の環境です。一方、街まで車で5分、市内の中心部でも15分程度と生活にも困りません。また、アクティビティとしては、夏は海水浴場、冬はスキー場が2時間圏内にあります。



〈混住型学生宿舍「先魁(さきがけ)Ⅰ」〉



〈写真手前が角間キャンパス 奥が金沢市街 その向こうに日本海を望む〉

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 新規プログラム開発による学生の海外派遣の推進

新しい海外派遣プログラムの開発を進めた結果、平成27年度の留学経験者数(単位取得有)は前年度比2倍弱(114人増)の248人となりました。平成28年度には新規・既存のプログラムを合わせて500人以上の学生が派遣可能です。多数の学生を滞りなく派遣するため、平成28年4月に「スタディアブロード・オフィス」を設置し、学生の派遣を一元的にサポートする体制を整えました。



○ 「国際交流スタジオ」の設置等による附属図書館のグローバル化

平成28年3月に、外国人留学生と日本人学生が日常的にコミュニケーションを取るための空間として、附属図書館3館に「国際交流スタジオ」(1館においては「国際交流コーナー」)を設置しました。国際交流スタジオには「留学生ラーニング・コンシェルジュ」を配置し、留学生の学修相談や、日本人学生との外国語会話練習に対応しています。



○ 留学生カウンセラーの常駐等による留学生支援の充実化

平成27年10月に英語で対応できるカウンセラー(常勤教員)を配置しました。また、本学の留学生支援に携わる学外者を「国際交流アドバイザー」として任命する制度も設け、学内外から留学生のメンタルヘルスや生活面を支援する体制を充実させました。

○ 海外同窓会の拡大とネットワーク構築

平成28年1月に、本学で6つ目の海外同窓会となる「インドネシア同窓会」が設立され、140名を超える同窓生等が設立記念懇談会に参加しました。また、平成27年10月には本学において第1回海外同窓会総会を開催し、同窓会と本学および同窓会同士のネットワーク構築を進めました。このネットワークを活用した研究・教育交流の拡大が期待されます。



ガバナンス改革関連

○ ガバナンス改革による事業実施体制の強化

部局長の選考時に学長が面接を行い、SGU事業を含めた本学の方針に関して意見交換を行うことにより、各事業実施部局と密に連携した体制が強化され、迅速かつ的確に事業を遂行しています。

○ ステークホルダーの意見を事業へ反映

平成27年7月に初回となる「金沢大学ステークホルダー協議会」を開催し、SGU事業を含む本学の教育、研究および運営状況等について報告しました。また、学内外のステークホルダーからさまざまな意見や要望を聴取し、広く得られた意見を参考に、本事業を推進しています。



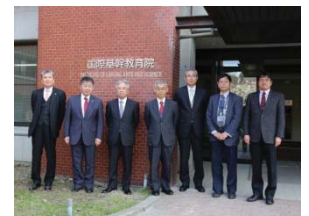
○ 新しい人事制度の活用による優秀な研究者の確保

平成27年1月から導入した年俸制や、同年4月から導入したコンカレント・アポイントメント制度といった新しい人事制度を積極的に活用し、平成27年度までに37名(うち海外からの招へい3名)の「リサーチプロフェッサー」を採用し、国内外の優秀な研究者の確保に努めています。

教育改革関連

○ 「国際基幹教育院」設置による大規模教育改革の実施

平成28年4月に、本学が独自に定めた「金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)」に基づいた基幹教育を担う組織として「国際基幹教育院」が設置されました。これまでの約300科目の共通教育科目が、KUGSに基づく30科目のGS科目に集約され、全ての学生が金沢大学生として必ず身につけるべき内容を学修することができるカリキュラムとなりました。



○ クォーター制導入による海外派遣の推奨

平成28年度からクォーター制を導入しました。学類ごとに必修科目を入れないクォーターを設定することで、短期の海外派遣プログラムへの参加が容易になるほか、クォーター制を上手く活用することで、留年せずに半年～1年の留学をすることも可能になります。

○ 「英語化マニフェスト」に基づいた全学的な授業英語化の推進

平成27年度に、教育担当理事が「英語化マニフェスト(学生篇)」および「英語化マニフェスト(教職員篇)」を策定し、本学の授業英語化は何のために、どのように行うかを明確にしました。これらを周知徹底し、全学的に授業英語化を推進する土壌を形成した結果、平成27年度の外国語による授業科目数は前年度比3.6倍(422科目増)の585科目となりました。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ タフツ大学との連携による教職員の英語力およびFDの強化

タフツ大学(米国)の協力のもと平成27年4月に設置した「金沢大学スーパーグローバルELPセンター」において、学生だけではなく教職員向けの英語研修を実施し、平成27年度までに97人の教職員が研修を受講しました。また、平成28年2月にタフツ大学CELT(Center for the Enhancement of Learning and Teaching)のセンター長等が来学し、先進的なFDの取組について講演会を行い、教職員らの見識を深めました。



○ 職員派遣の推進による海外拠点の機能強化

海外研修の一環として、本学重点交流校への職員派遣プログラムを開始し、平成27年度はタフツ大学(アメリカ)およびゼント大学(ベルギー)にそれぞれ2名の職員を8日～2週間程度にわたり派遣し、本学情報の発信、現地情報の収集、留学生のリクルート等を行いました。



○ 「高度TA」制度による未来を担う教員の育成

平成27年度に、従来のTAよりも高度な活動を行う「高度TA」制度を開始し、新学術創成研究機構において14名の博士後期学生を採用しました。採用学生は「スキルアップセンター」で教授法の研修を受けてから実際の授業の講義補助を行い、将来は大学教員となることが期待されています。

○ 多様な人材の受入れを見据えた入試改革の実施

平成30年度入試から導入する「文系一括・理系一括入試」の概要について、平成28年5月に公表しました。本学の特色である学域学類制を活かし、入学してからじっくりと時間をかけて自身の専門分野を選択できるシステムを整え、多様な志向を持った学生の受入れにつなげます。また、平成27年度入試から国際学類で導入した英語外部試験の利用を、平成30年度入試には全学類に拡大することを予定しています。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 高大連携によるグローバル人材育成につなげるシンポジウムの開催

平成28年3月に、本学附属高校を含む石川県内の6高校(SGH、SSH等採択校)の協力を得て、高大連携によるグローバル人材の育成をテーマとしたシンポジウムを開催し、高校生160名を含む約280名が参加しました。「グローバルサイエンスキャンパス」事業への採択も追い風として、今後さらに高大連携を強化し、優秀な高校生の確保につなげます。



○ トビタテ！留学JAPANによる留学推進のための独自支援を実施

トビタテ！留学JAPANによる留学を推進するため、学内説明会の実施や事務担当者による個別相談会、書面審査合格者に対する学長との面接練習など、独自の支援を行っています。



○ 「地域『超』体験プログラム」を通じた人間力強化

平成26年から開始した人間力強化プログラムを、平成27年度から共通教育科目「地域『超』体験プログラム」として開講し、回数を4回に増やして実施しました。地域に根付いた文化体験や、民泊による地元の人々との交流といった貴重な体験は学生からの評判も良く、4回合わせて112名(うち留学生20名)が参加しました。



■ 自由記述欄

○ 多様なメディアを活用した情報発信の推進

既存の事業Webサイトに加えて、平成27年度には「KU-SGU通信」の発行(月1回)を開始し、本学SGU事業の特徴的な取組について簡潔にわかりやすく伝えています。またFacebookによる情報発信も開始し、イベント周知等に加えて、海外に派遣された職員からの現地レポートなどより親しみやすい内容を発信しています。



○ グローバル化をイメージした新しいプロモーションビデオの公開

平成27年12月にグローバル化をイメージした新しいプロモーションビデオを公開しました。有名アーティストのミュージックビデオを多数手がける丸山健志氏(金沢市出身)を監督に迎え、本学の日本人学生・留学生もエキストラとして多数出演しました。本学キャンパスおよび金沢市内各所で撮影された美しい映像が、疾走感あふれる音楽と共に映し出される、海外のショートフィルムのような作品となっています。



4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【金沢大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 日本人学生の海外派遣の強力な推進

平成28年4月に全学的に海外派遣計画を統括及び監督する「海外派遣推進委員会」、学生の海外派遣を一元的にサポートする事務組織「スタディアブロード・オフィス」を設置し、学生の派遣を強力に推進する体制を整えました。新たな海外派遣プログラムや海外インターンシップ先の開拓を行い、学生の海外派遣先が大きく増加し、学士課程の学生を中心に昨年度を倍増する500人以上の学生を海外へ派遣しました。また、学生の海外派遣促進を目的に、海外留学(研修等を含む)や研究交流をする学生を対象とした金沢大学独自の奨学金である「スタディアブロード奨学金」を新設しました。



○ 新たな学生・留学生宿舍「北溟(ほくめい)」を整備

平成29年3月には新たな学生・留学生宿舍「北溟(ほくめい)」(200名収容)が完成しました。1ユニットに留学生3名と日本人学生2名の計5名が生活する混住型の宿舍となっています。今回の「北溟」の完成により、先行して整備された「先魁(さきがけ)」と合わせ、収容人数がこれまでの104名から304名と約3倍となり、これまで以上に日本人学生と多彩な国籍の外国人留学生たちが金沢大学のキャンパス内でともに生活することになります。これによりさらにグローバルな生活環境が広がることが予想され、まるでキャンパス内に新しい町ができたような変化が生まれ、金沢大学のキャンパスがよりグローバル化することとなります。



○ 外国人留学生受入促進のために奨学金制度を見直し

海外から本学への留学促進を目的に、留学生への経済支援の一環として、「スタディア KU奨学金」を新設しました。留学生の留学意欲・研究意欲を引き出し、国際的な連携ネットワークの形成及び頭脳循環を推進することを目的としています。

○ 米国に金沢大学メドフォード事務所開設、米国・タフツ大学とのジョイントシンポジウムを開催

平成28年12月、米国・タフツ大学メドフォードキャンパスに、金沢大学メドフォード事務所を設置し、設置記念式典を行いました。タフツ大学との交流推進と合わせて、米国での教育研究交流の拠点としての機能が期待されます。

また、事務所開設に合わせて第1回タフツ大学・金沢大学ジョイントシンポジウムを開催しました。両大学の教育研究におけるさらなる交流促進、その先の共同研究・国際頭脳循環の実現に向け、文系・理系・医系の最先端分野での学術交流を行いました。



○ 中国に金沢大学北京事務所開設、第2回金沢大学中国同窓会及び金沢大学北京事務所開所記念日中学生・研究交流を開催

平成28年10月に金沢大学北京事務所を開設し中国における留学生の募集、本学からの派遣学生の支援や海外共同研究の促進の拠点としての活動を始めました。平成29年3月、北京事務所開所式を挙るとともに、第2回金沢大学中国同窓会を開催し、留学生同窓生や中国国内の国際交流協定校などからの来賓を含む約120名が出席しました。

また、北京事務所開所記念として、日中学生・研究交流会も合わせて開催しました。本学からは大学院生31名、中国国内からは総勢71名の中国トップレベルの大学に在籍する大学院生が参加し、交流を進めました。



ガバナンス改革関連

○ YAMAZAKIプラン2016の策定

国立大学に対する社会の要請や期待が高まるなか、海外大学と伍して世界的に卓越した教育研究、社会実装を一層推進するため、平成26年度から4年間で取り組む大学改革の行動計画として策定した「YAMAZAKIプラン2014」を発展的に見直し、真の「グローバル大学」を目指す新たな改革の行動計画として、平成28年10月に「YAMAZAKIプラン2016」を策定しました。



○ 新たな教員評価制度の導入

教員のモチベーションを高め、本学の教育・研究活動等の活性化を図ることを目的に、教員が行う教育・研究活動や社会貢献活動等を適正に評価し、評価結果を給与処遇に反映する新たな教員評価制度を導入しました。

○ 「国際基幹教育院」の設置とGS(Global Standard)科目のスタート

平成28年4月に、本学の教育全体の高度化と国際化を牽引することを目的とし、学士課程から大学院課程までの基幹教育を担う「国際基幹教育院」を設置しました。本学独自の教育方針である「金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)」に基づく5つの柱に沿って共通教育における約300の総合、テーマ別、一般の科目を30のGS科目に集約しました。GS科目は、科目共通のオリジナルテキストを作成し、授業運営法についても共通化することにより、授業を担当する教員による教授内容、評価方法のばらつきを無くし、全ての学生が目標とする5つの学習成果を達成できるように設計されています。

○ 4技能を実践的にトレーニングする英語科目の実施

学士課程1年生全員が履修する英語科目のカリキュラムを、GS言語科目(英語)「EAP(English for Academic Purposes)」 「TOEIC準備」に大幅に改革しました。この改革により、4技能を実践的にトレーニングし、より「使える」英語を身につけられるようになりました。また、第4クォーターの期末試験として、TOEIC(L&R)のIP試験を課し、平均528点(受験者数約1600人)のスコアを記録しました。今後はこのスコア結果を詳細に分析し、さらに効果的な授業改善を進めていきます。

○ 平成30年度入試から全学的に英語外部検定試験の利用を拡大

平成27年度入試から人間社会学域国際学類で先行導入した英語外部評価試験の利用について、平成30年度入試から対象学類を大幅に広げ、全学的に利用をすることとしました。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ トビタテ！留学JAPANで本学学生が積極的に留学

トビタテ！留学JAPANによる留学を促進するため、平成27年度から学内説明会の実施や事務担当者による個別相談会、書面審査合格者に対する学長との面接練習などの独自支援を始めましたが、平成28年度第6期派遣留学生の選考結果が発表され、本学からは24名が合格しました。また、併せて発表された大学別の合格学生数では、九州大学(28名)、早稲田大学(25名)に続く第3位、国立大学としては第2位となりました。



○ 職員交流の推進による海外拠点の機能強化

職員のグローバル意識の向上を目指し、本学重点交流校への職員派遣プログラムを実施しています。平成28年度はタフツ大学(アメリカ)へ3名の職員を1週間程度、モンクット王工科大学(タイ)へ2名の職員を2週間程度にわたり派遣し、本学情報の発信、現地情報の収集、留学生のリクルート等を行いました。また派遣だけでなく、相互の交流が重要であることから、平成28年度から交流校の職員を受け入れるプログラムも開始しました。5月と11月に本学重点交流校である米国・タフツ大学から2名の職員を受入れ、交流を深めました。



○ 「地域『超』体験プログラム」を通じた人間力強化

平成27年度から共通教育科目として開講した「地域『超』体験プログラム」を平成28年度も継続して能登・珠洲、能登・小木、白山麓、五箇山の4回実施し、計111名(うち留学生10名)の学生が参加しました。平成28年度から大学コンソーシアム石川が実施するいしかわシティ・カレッジと連携し、合宿先で訪れる地域について事前講義を行い、民泊を通じてその地域の豊かな文化や産業、自然環境の中で生活する人達との密度の高い交流ができました。



■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ グローバルキャリアをテーマとしたシンポジウムの開催

平成29年3月に、協校校である県内の11の高校(本学附属高校および県内7つの公立高校)の協力を得て、グローバルキャリアをテーマとしたシンポジウムを開催し、約150名の現役高校生が参加したほか、高校教諭、本学関係者等あわせて約180名が参加しました。また、本シンポジウムの企画運営には、下記のKU-SGU Student Staffが参画しました。



○ KU-SGU Student Staffの発足

本事業推進に協力する学生スタッフ組織「KU-SGU Student Staff」が発足しました。主として学生向けの取り組みを企画・実施し、大学とともに大学のグローバル化の推進を図ることを活動の趣旨とし、留学制度説明会や[キャリア]×[グローバル]セミナーなど計5回のセミナー等を実施しました。



5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【金沢大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 教育目的や学生のニーズに対応する多様な海外派遣プログラム

平成28年度大幅に拡大した海外派遣プログラムについて、新たに25プログラムを企画・実施しました。海外初心者向けのファーストステッププログラムでは、新たに中国、ロシアへのプログラムを実施し、海外インターンシップについては、本学の強みである文化資源学を活かしたグアテマラのマヤ遺跡でのプログラムを実施するなど、多様なプログラムを整備し、608人(前年度比106人増)の学生を海外へ派遣しました。



○ 世界トップレベル大学との二重学位プログラムの設置、研究ジョイントシンポジウムの開催等による大学院生の海外派遣の拡大

大学院課程において、グローバルマインドを持ち、専門知識と課題探究能力を有する高度専門人材を育成するために、大学院生の海外派遣を組織的に拡充しています。

平成29年度には、自然科学研究科における大学院生を対象とした7つの海外派遣プログラム、異分野融合型人材育成「大学院GSプログラム」の実施や新学術創成研究機構高等教育部門による海外研究派遣助成や海外学会派遣助成等により、平成29年度は307人(前年度比44人増)の大学院生を海外に派遣しました。

また、平成30年2月には、ベルギー・ゲント大学、フランス・ストラスブール大学との間でジョイントシンポジウムを実施し、特にゲント大学においては、大学院生の研究交流会を実施し、研究ネットワークに基づく若手研究者・大学院生の交流を推進しました。



○ 重点交流協定校との新たな留学生教育プログラムの開発

平成29年度から新規短期留学受入れプログラムとして、Kanazawa University March-August Program (KUMAP) 及び Kanazawa University September-December Program (KUSDP) を実施し、重点交流校から約20名の留学生を受け入れました。

さらに、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指す「大学の世界展開力強化事業(ロシア)」の採択を受け、「ロシア文化交流受入れプログラム(3週間)」、ロシア各地の交流協定校から6名の学生を受け入れました。



○ タイ・バンコクに国立六大学バンコク事務所を設置

重点交流地域であるタイ・バンコクにおいて、平成29年8月に国立六大学(金沢、千葉、新潟、岡山、長崎、熊本)が共用する国立六大学バンコク事務所を設置しました。

本事務所では、新たに現地語による留学生向けキャンパスライフガイドブックを作成・設置し、留学希望者への本学情報の提供や留学希望者からの相談対応などを行い、タイでの国立六大学の情報発信拠点として活用します。

なお設置にあたり、「日タイ学生・研究交流会2017 (Japan -Thailand Research Exchange Conference 2017)」を開催し、キングモンクット工科大学トンブリ校やチュラロンコン大学との大学院生の研究交流を促進しました。



○ ベトナム・ハノイで第2回金沢大学海外同窓会総会を開催

平成30年1月にベトナム・ハノイにおいて、第2回金沢大学海外同窓会総会を開催しました。本学の海外同窓会のうち、ベトナム、タイ、ミャンマー、中国、インドネシアの同窓会の代表者が出席し、活動報告を行い、今後の連携について議論を進め、現地学生に向けた本学の留学情報の発信について更なる充実と、各同窓会と本学との連携拡大に向けた方策の検討を行いました。

なお、次回海外同窓会総会はミャンマーでの開催を予定しています。



ガバナンス改革関連

○ グローバル化を見据え社会のニーズに対応した大学院の設置、学類改組・コース再編

本学の強み・特色を生かし機能強化を図るため、平成30年度から人間社会学域経済学類、地域創造学類、国際学類においてコースの見直し、定員変更を行い、理工学域においては、新たな学類として、機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類、地球社会基盤学類、生命理工学類を設置しました。

さらに大学院課程において、「科学技術イノベーション人材」の養成を目的として、平成30年度から北陸先端科学技術大学院大学との共同教育課程を実施する新学術創成研究科融合科学共同専攻を設置しました。

教育改革関連

○ KUGSが目指す人材像に応じた学生確保に向けた入試改革

KUGSが目指す人材像に応じた優れた資質・能力・意欲を備えた学生を確保するため、平成30年度入試から「文系後期一括、理系後期一括」入試及び「理工学域3学類前期一括」入試を導入するとともに、全学類で英語外部試験の活用を図る等、新たな入試を実施しました。

「文系後期一括、理系後期一括」入試で入学した学生の学修支援を行うため、国際基幹教育院に「総合教育部」を設置し、アカデミック・アドバイザーのサポートのもと、充実した教養教育・基礎教育を行う体制を整備しました。

さらに高大接続ラウンドテーブルを開催するなど、高大接続のあり方について、検討を進めています。

○ 授業の英語化の着実な推進

平成27年に設置した金沢大学スーパーグローバルELP(English Language Programs)センターにおけるタフツ大学ELP 教員研修プログラムを引き続き実施するとともに、英語による授業の更なる拡大に向け、第1クォーターに英語化授業のアンケートの実施及び分析を行い、英語による授業の拡大に向けた課題を整理しました。

あわせて国際基幹教育院スキルアップセンターにおいて、授業の質保証に向けた検討を行い、英語で教授するために必要な英語表現や少人数クラスを想定したマネジメント方法等、実際の授業運営に役立つスキルを学ぶためのFD研修を実施しました。

これらの取組により、学士課程における英語による授業科目の割合は平成28年度の6.3%から11.5%に増加し、大学院課程においても、平成28年度の25.0%から33.8%に増加しました。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 留学生の日本企業への就職支援体制を強化

平成29年度に信州大学と共同プログラムとして「かがやき・つなぐ」北陸・信州留学生就職促進プログラムが採択され、留学生のキャリア形成を進めています。

このプログラムは、企業が求める留学生人材像に応える高度職業人材を育成・輩出するための「ビジネス日本語教育」、「キャリア教育」、「協働インターンシップ」等の各種カリキュラムを提供し、外国人留学生の日本企業での就職を促すものです。



■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ KU-SGU Student Staffによる「グローバルウィーク」を開催

平成29年6月26日～30日の1週間を「グローバルウィーク」と位置付け、「International Exchange」「Study Abroad」「Discovery」をキーワードとし、日常生活では味わえない国際交流体験をすることで、学生の視野を広げることを目的とする「グローバルウィーク～君のキャリアアップだけを考えた国際交流フェスタ～」を開催しました。

このイベントは、平成28年度に発足した本事業推進に協力する学生スタッフ組織「KU-SGU Student Staff」が中心となり、各学生団体・グループと連携し、各種イベントを実施し、400名を超える学生が参加しました。



○ 世界で活躍する著名人が金沢大学生に語りかける講演会を開催

海外体験や異文化体験の豊富な著名人を招き、本学の学生が海外や国際化に目を向けるきっかけとするために実施する「金沢大学スーパーグローバル人材育成特別講演会」を開催しました。

平成29年4月には元国連事務次長の明石康氏、6月には、元プロテニスプレーヤーの沢松奈生子氏、12月には元科学技術事務次官の石田寛人氏が学生に対して熱く語りかけました。

また、平成29年6月には、サッカー日本代表の本田圭佑選手による特別講演会も開催し、600名を超える学生が参加し、学生に対して失敗を恐れず行動することの大切さや、自分自身との向き合い方などを語るとともに、「大きな目標に向かって、日本で成功することだけに捉われず、世界にも目を向けて挑戦していったほしい」と激励がありました。

6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【金沢大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 学生の海外派遣の更なる推進

学生アンケートの結果に基づく海外派遣プログラムの構築や、大学独自の「スタディアブロード奨学金」及び戦略的に獲得した日本学生支援機構の海外留学支援制度によるサポートなどにより、単位認定のあるプログラムでは過去最高の631人の学生を海外へ派遣しました。また、トビタテ！留学JAPANによる留学についても、学長との面接練習など独自の支援を継続し、平成30年度第9期の派遣留学生には14名が合格して大学別で全国第7位となりました。

○ 海外事務所の拡大による国際化の推進

平成30年9月にはドイツ・デュッセルドルフ大学及びロシア・カザン連邦大学、同11月にはタイ・プリンスオブソクラ大学の3キャンパスに海外事務所を開設しました。いずれの場合も、事務所開設と同時にジョイントシンポジウム等を開催して研究者及び大学院生が研究交流を行い、今後の更なるネットワーク強化に向けた基盤を強固にしました。

また、国立六大学バンコク事務所(平成29年6月開設)では、平成30年8月に国立六大学とタイの大学とのジョイントシンポジウムを開催し本学教職員・大学院生18名が参加した他、中国国内で行われた日本留学説明会3件に本学北京事務所(平成28年10月開設)のスタッフが参加するなど、既存の海外事務所を基点とした活動も活発化させています。



○ ロシアとのネットワークの強化と深化

平成29年度に採択された「大学の世界展開力強化事業(ロシア)」を受け、本学が長年培ってきたロシアの大学とのネットワークが強化されています。平成30年度には、サンクトペテルブルク国立大学、モスクワ国立大学を同事業の連携機関に追加した他、サンクトペテルブルク国立大学、カザン連邦大学(同大学及び本学で2回開催)、サンクトペテルブルク医科大学とそれぞれジョイントシンポジウムを開催しました。特にカザン連邦大学とは、同大学のあるタタールスタン共和国大統領をはじめとした来日団の受入や、海外事務所の相互設置、ダブルディグリープログラムに関する覚書の締結など、双方向の交流が一段と深化しています。



○ 留学生支援及び交流の充実

中央図書館及び自然科学系図書館に設置している「国際交流スタジオ」等において、主に日本語で対応するラーニング・アドバイザー、英語や留学生の母国語等で対応する留学生ラーニング・コンシェルジュ及び全学的な学修相談に対応するアカデミック・アドバイザー教員が連携し、留学生向け学修支援を行っています。平成30年度には、留学生ラーニング・コンシェルジュの出身国を増やし、デスクの実施時間帯も改善することで相談件数を前年度から倍増の165件とし、留学生への学習支援を強化できました。また、同スタジオで「English Hour!」等の留学生と日本人学生が気軽に交流できるイベントを定期的に開催し、キャンパスのグローバル化を加速させています。



ガバナンス改革関連

○ 新YAMAZAKIプラン2018の策定

本学では、「大学改革推進委員会」を設置し、学長のリーダーシップの下、スピード感のある全学的意思決定を可能とするガバナンス体制がとられています。これまで同委員会の下、大学改革プランとして「YAMAZAKIプラン2014」及び「YAMAZAKIプラン2016」を策定し、世界的な教育研究成果の創出に向けた様々な改革を推進してきました。そして、社会変革への対応が大学に求められる中、世界を牽引し、地方創生にも寄与する国際的な教育研究拠点を形成するため「新YAMAZAKIプラン2018」を平成30年4月に策定し、金沢大学グローバル人材の育成、WPI等の卓越した研究展開など、大学の国際化、教育・研究の高度化を推進しています。



○ 国際機構の改組による国際化推進体制の強化

平成30年4月に本学の国際化推進を統括する国際機構を改組し、機構内に「国際連携戦略部門」「国際協力・交流支援部門」「グローバル教育研究部門」を設置しました。このことにより、各部門が所掌する事業が明確化され、機構内及び部局との連携体制が強化されました。同時に、事務組織である国際機構支援室を国際部へ改組し、機構の各部門と事務組織がより密接に連携しながら業務を進める体制となりました。

教育改革関連

○ 分野融合型教育を推進する新研究科が発足

平成30年4月、新たに発足した「新学術創成研究科」に本学と北陸先端科学技術大学院大学の共同専攻として「新学術創成研究科融合科学共同専攻」を設置し、13名の学生が入学しました(うち2名が外国人留学生)。本共同専攻では複数の専門分野を融合させる「融合科学」に主眼を置き、国内外でのインターンシップやラボローテーションを通じて分野を超えてイノベーションを創出できる人材の育成を目指しています。

○ 大学院における「金沢大学ブランド」の人材育成の推進

異分野融合型教育プログラム「大学院GSプログラム」を実施しました。同プログラムでは、学生自身が海外留学や海外インターンシップ、海外フィールドワーク等を通して課題と向き合い、その課題解決のために必要な複数の学問領域を学ぶラボ・ローテーションを組み込んだカリキュラム編成としています。平成30年度には90名の学生が同プログラムに参加し、分野の異なる研究室の研究活動に参加するなど、分野融合型教育を推進しました。

○ KUGSが目指す人材像に応じた学生確保に向けた入試改革の進展

KUGS(「金沢大学<グローバル>スタンダード」)に適う人材を高大接続プログラムにより育成する「KUGS特別入試」、及び、特異な才能を備えた多様な学生を受け入れる「超然特別入試」の導入に向け、平成30年7月に「高大接続・コアセンター」を設置し、様々な視点から高大接続の在り方を議論するとともに、超然特別入試の前提として、未来を拓く高校生のためのコンテスト「超然文学賞」及び「数学A-lympiad」を創設・実施しました。「超然文学賞」は「言葉の力」を日々磨く高校生を対象とし、小説と短歌の二部門に21名の応募があり、9名を表彰しました。「数学A-lympiad」は世界共通の社会問題の解決に数学の力で挑戦することを目的とし、全国から47チームが参加し、7チームを表彰しました。そのうち上位2チームを、平成31年3月にオランダで開催された世界大会「Math A-lympiad」に日本代表として派遣しました。



■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 世界的研究拠点の形成

平成29年度にWPI事業に採択されたことを受けて設置したナノ生命科学研究所では、本学の世界最先端のバイオSPM(走査型プローブ顕微鏡)技術と超分子科学技術を核に新学問領域「ナノプローブ生命科学」を創出することを目指しており、世界中から著名な研究者が集結しています。また、若手研究者等に同研究所のAFM(革新的原子間力顕微鏡)を用いた研究試料の観察機会を提供する「バイオAFM夏の学校」は国内外から好評を博しており、平成30年度は参加者23名のうち10カ国から13名の外国人が参加しました。今後の世界的研究拠点としての更なる発展が期待されています。

○ アクティブ・ラーニングの推進

アクティブ・ラーニングをさらに推進すべく、アクティブ・ラーニング型授業の実践記録まとめた「授業カタログ」を50科目作成して学内公開し、授業へのアクティブ・ラーニング導入や授業内容の改善を支援しています。また、アクティブ・ラーニングに関する研修を全学・部局で30回開催した他、授業内外でのアクティブ・ラーニングを支援するアクティブ・ラーニング・アドバイザーを229名採用して学生の能動的な学修を支援しました。これらの取組により、アクティブ・ラーニングを取り入れた科目数は平成29年度の4,081科目から平成30年度には4,697科目に増加しました。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ KU-SGU Student Staffによるキャンパスの国際化の推進

本事業の推進に協力する学生組織「KU-SGU Student Staff」が、海外留学や留学生との交流を促進する各種のイベントを開催しています。平成30年度には、日本人学生と外国人留学生の交流を日常的に促進するため、交流を行いたい学生が意思表示できる国際交流バッジを考案しました。学生目線での活動が、国際化をキャンパス全体に広げることにつながっています。



○ 留学生の日本企業への就職支援体制の更なる充実

本学では平成23年に立ち上げたビジネス日本語講座を基盤に、平成29年度に採択された留学生就職促進プログラムを信州大学と共同で推進しており、e-learning教材の作成や、企業とのマッチング支援・インターンシップの拡充など、就職支援体制をさらに充実させ、平成30年度には、当該プログラムで単位を修得した留学生のうち日本での就職希望者は全員内定を得ることができました。本事業で増加する外国人留学生が地域に定着することで、グローバル化を地域へも確実に波及させていきます。

○ KUGSの理念を体現する人間力強化プログラムの拡大

KUGSに掲げる5つの能力・体力・人間力を備え、「各人の立ち位置に課された人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける」人材の育成に必要なのは、「他社と共生する態度」であるとの認識に立ち、これまでに実績のある「地域『超』体験プログラム」等の理念を拡充した「協働的体験教育プログラム」の枠組みを開始しています。本プログラムは、地域住民や外国人など他者との交流や支援を内容とする「協働的ボランティア活動(協働的体験活動)」と、他者との共同生活を通じて相互理解を深め、協力して課題に取り組む「協働的体験合宿」の2種類のプログラムに分類し、活動内容に応じて修了した学生にはポイントを付与します。「協働的ボランティア活動(協働的体験活動)」と「協働的体験合宿」の双方に参加し、15ポイント以上を修得した学生には協働的体験教育プログラム修了認定を行います。KUGSの理念を体現する人間力強化を確実にするとともに、「金沢大学ブランド」の人材として内外にアピールできます。

○ 地域特性を活かした高等教育研究ネットワークの中核機能の強化

本学では、近接する白山市の白峰地区をフィールドとした留学生向けの地域体験教育を開発してきました。平成30年度にはユネスコの「持続可能な開発目標達成に貢献するユネスコ活動の普及・発展のための交流・協力事業」に採択され、本学が中核となり、ベラルーシ、ロシアの大学と共同で各国のユネスコパークを実践の場とした留学生教育プログラムの開発に取り組んでいます。平成31年2月には、白山市、白山しらみね自然学校等と連携し、白山市白峰地区に新たな教育研究拠点である「金沢大学国際機構SDGsジオ・エコパーク研究センター」を設置し、活動をさらに進展させます。今後も本学の教育研究の強みと地域特性を活かして、世界の高等教育研究ネットワークの中核としての機能を強化していきます。



7. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【金沢大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 学生の海外派遣の更なる推進

海外初心者向け「ファーストステッププログラム」の派遣先大学の追加や、新たに設置した研究拠点へ派遣するインターンシッププログラムの新規開発により夏季休業期間中の派遣学生数が増加した結果、新型コロナウイルスの影響で春季休業期間中のプログラムの多くが中止になったにもかかわらず、単位認定のあるプログラムでは昨年度を超える約640名の学生を派遣しました。なかでも、海外インターンシップ・ボランティア参加学生は平成30年度の84名から125名へと増加しました。



〈シリコンバレーを訪れるインターンシッププログラムにて〉

○ 海外拠点活用方法の多様化

タイ・バンコクの拠点においては、令和元年8月に大学院学生研究交流会を実施し、本学の大学院学生19名を派遣しました。また、ベルギー・ゲント大学の拠点においては、令和2年2月に本学教員による講演会及び本学派遣学生と現地の学生との交流会を実施しました。さらに、ロシア・カザン連邦大学の拠点においては、先方からの要望に応じて本学から日本語講師を5週間にわたり派遣しました。



〈バンコク拠点で開催した研究交流会の表彰式〉

このように、学生交流、研究交流、教育活動といった多様な用途で海外拠点が活用された結果、海外拠点に常駐・派遣された教職員数(累積)が目標を大きく超える150名となりました。

○ ミャンマーで第3回金沢大学海外同窓会総会を開催

令和2年2月にミャンマー・ヤンゴンにおいて「第3回金沢大学海外同窓会総会」を開催し、ベトナム、ミャンマー、タイ、インドネシアの各海外同窓会から会長ら7名、本学から学長ら7名が参集し、各海外同窓会と本学のネットワーク強化及び海外同窓会間の連携強化を図りました。また、これに併せて開催された第2回ミャンマー同窓会には、ミャンマー在住の同窓生13名と本学関係者らが参加し、同窓生同士及び本学と海外同窓会間のネットワーク強化を図りました。



〈金沢大学同窓会総会とミャンマー同窓会を共催〉

○ 中国・清華大学との交流促進

令和元年5月に清華大学において、「Kanazawa Day」を開催し、本学から学長、理工研究域長、環境工学及び都市計画分野の研究者7名、事務職員2名及び大学院学生11名が参加しました。双方の参加者同士の交流を深めるとともに、清華大学との今後の学生交流及びダブルディグリープログラムについての議論を開始しました。これを機に、これまで相互学生のサマープログラムの参加に留まっていた関係が、学位取得を含む学生交流に向けて進展しました。

また、先方からの提案を受け、令和2年4月に清華大学深圳国際大学院に本学の海外教育研究拠点を開設しました。学生交流及び研究交流の拠点としての活用が期待されています。



〈「Kanazawa Day」における大学院学生交流会〉

ガバナンス改革関連

○ 新学域「融合学域」設置に向けた取組の推進

既存の3つの学域(人間社会学域、理工学域、医薬保健学域)に次ぐ新学域「融合学域」の令和3年度設置に向けて、学長を委員長とする融合学域設置検討委員会を組織し、準備を進めてきました。令和元年8月に開催したオープンキャンパスにおいては、新学域に係る「構想説明コーナー」を設け、新学域の教員が高校生や保護者に対して設置構想を説明しました。また、新学域が養成する人材像のイメージと合致する有識者を招き、社会変革人材の養成に関する考えを伺うことを目的としたセミナーを令和元年6月から令和2年1月にかけて計7回開催し、本学教職員及び学生、延べ220名が参加しました。

教育改革関連

○ 英語による授業科目の増加に向けた学内連携体制の強化

重点的に対応が必要な課題に取り組むSGU重点課題タスクフォースを新たに設置し、授業科目英語化に関するワーキンググループと連携することで、これまでの施策の継続に加えて、授業英語化の拡充及び英語のみで卒業できる教育プログラムの設置を促進し、それらの受講者増に向けた施策を策定しました。その結果、学士課程における英語による授業科目の割合は平成30年度の15.2%から21.2%に増加し、大学院課程においても、平成30年度の35.5%から42.3%に増加しました。

また、新たな取組として、共通教育で英語教育を担当する教員とEMI科目(English Medium Instruction: 英語で実施する専門科目の授業)を担当する教員との意見・情報交換を実施し、共通教育から専門教育へのスムーズな接続や連携強化に繋げました。

○ 一括入試入学者の学類への移行を強力サポート

平成30年度入試から導入した「文系後期一括、理系後期一括」入試で入学した学生は、1年次は総合教育部に所属し幅広い分野を学び、2年次から学類に移行します。対象学生には、担任教員による全員対象の個人面談、アカデミック・アドバイザーによる進路相談を行ったほか、理系の学生には、必要に応じて物理学、化学、数学のリメディアル教育を実施しました。また、令和元年度に学類へ移行した総合教育部1期生のアンケート等から洗い出された問題点を改善し、総合教育部と学類との連携を強化しました。

これらの取組により、総合教育部学生の円滑な学類移行を実施しました。

○ 「KUGS特別入試」実施に向けた「高大接続プログラム」の開始

令和3年度入試より実施予定の「KUGS特別入試」の出願要件とする「KUGS高大接続プログラム」を開始しました。同プログラムは「高校での学び」と「大学での学び」（本学が提供するプログラム）から成り、受講した高校生から提出されたレポートを高大接続コア・センターにおいてKUGS（金沢大学＜グローバル＞スタンダード）に基づき評価しました。その結果、高校での学び10名、大学での学び179名が基準を満たし、6名のプログラム修了を認定しました。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ コラボラティブプロフェッサーの多方面での活躍

平成31年4月に新たな委嘱方針を制定し新規選定を進め、計40名に委嘱しました。その結果、令和元年度末時点でのコラボラティブプロフェッサー（以下CP）は162名となりました。また、本学SGU事業Webサイト内に貢献度の高いCPを紹介するページを作成し、協力事例を学内外へ周知しました。

CPのうち、海外拠点でもあるタイ・モンクット王工科大学のカンタチャワナ准教授は日本留学海外拠点事業に積極的に関与していただいております。令和元年度のバンコク拠点の開設や現地での留学フェア開催にご尽力いただきました。また、ロシア・カザン連邦大学のタユルスキー副学長は大学の世界展開力強化事業において申請時からご尽力いただいております。令和元年度は「石川～ロシア大学交流コンソーシアム」創設に大きく貢献していただきました。このように、本事業によるネットワーク拡大が他の国際交流事業の推進にも貢献しています。



〈コラボラティブプロフェッサー紹介ページ〉

○ 本学独自の英語力強化プログラムの開発

教職員向けの英語研修を実施するために平成27年に設置した金沢大学スーパーグローバルELPセンターにおいて、これまで連携していた米国タフツ大学との契約期間が終了したことを受け、より本学の受講者のニーズに沿った独自のプログラム「KU-ELP」を開発し、令和元年10月より提供を開始しました。これまでにELPプログラムを受講した教職員（累積）は目標を超える427名となりました。また、当センターの専任教員は、教職員向けの研修に加えて、学生対象の授業も担当し、全学的な英語力強化に貢献しています。

○ 新たな共同学位プログラム設置に向けた取組の推進

教育の国際標準化への取組として、自然科学系においては令和2年2月に本学教員がチェコ工科大学を訪問し、また、人文社会系においては同じく令和2年2月に本学教員がベルギー・アントワープ大学を訪問し、いずれもダブルディグリー等の共同学位設置に向けたチューニングに関する意見交換およびチューニング作業を進めました。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組（タイプBのみ）

○ 地域「超」体験プログラムと協働的体験プログラムによる「人間力」の強化

事業当初より実施している地域「超」体験プログラムにおいては、4回の合宿に計105名の学生が参加しました。また、その理念を拡充して平成30年度から開始した「協働的体験教育プログラム」においては、選定した65のプログラムに548名が参加しました。後者においては、活動内容に応じてポイントを付与し、規定のポイントを満たす学生は修了認定しました。

参加学生は、地域の人々との触れ合いやボランティア活動等を通じて、グローバル社会で生き抜くために必要な「人間力」を身に付けることの重要性を確認することができました。



〈合宿の一環として坐禅に挑戦〉

○ KU-SGU Student Staffの活動強化

学生団体「KU-SGU Student Staff」が、海外留学や留学生との交流を促進する各種のイベントを通じて、学生目線から本事業の推進に協力しています。

令和元年度は、本学学生向けに留学制度説明会や留学経験者と希望者との相談会、海外の大学院で学ぶ卒業生を招いた講演会を開催したほか、オープンキャンパスの一環であるサマーカレッジにおいて留学関係ブースを企画したり、本学が新聞社と共催した市民公開講座においてパネルディスカッションを行ったりと、より規模の大きいイベントの企画も手がけました。



〈公開講座でのパネルディスカッション〉